学校番号	３１９

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	アカデミア世界史（浜島書店） 時代と流れで覚える！世界史Ｂ用語（文英堂） 実力をつける世界史 100 題（Ｚ会） はじめる世界史 要点＆演習（Ｚ会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科書を事前によく読んで授業に臨んでください。
・語句を暗記するだけでなく、縦の時間軸と横の空間軸を意識して、歴史的事象の因果関係や相互関係などを理解することを心掛けてください。
・歴史に対して興味関心を持って、自ら学習する姿勢を心掛けましょう。
・問題演習を通じて、基礎的な知識の定着、応用問題に取り組みます。

2　学習の到達目標

グローバル化がすすむ現代において、国際関係や相互理解を深めるために、歴史的な知識や関係性を理解し、平和で民主的な国家に生きる公民として次の資質・能力を育成する。
①　現代につながる歴史的事象を学び、大まかな歴史の流れを理解できる。（知識及び技能）
②　史料・地図・統計などから時代背景や国際事情を関連付けて考察することができる（思考力・判断力・表現力等）
③　歴史的事象や流れを理解するために問題演習や資料検討に取り組み、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。（学びに向かう力、人間性等）

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	問題演習を通じて、世界の歴史を日本の歴史や地理と関連付けながら理解し、諸資料から適切に情報を読み取る力を身につけるようにする。	世界の歴史の展開や諸事象の意味や意義、因果関係や相互関係を現代とのつながりに着目しながら考察し、課題の追求や解決に対して歴史的な見方や考え方を表現できるようにする。	世界の歴史の展開や諸事象について興味・関心を持つとともに、多面的・多角的な考察から意欲的に学習できるようにする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	古代	オリエント・地中海世界	a：メソポタミア、エジプト、東地中海、西アジアにおける諸国家、ギリシアのポリス社会、ローマの共和政と帝政の特徴を把握している。ローマが地中海周辺諸地域を征服し、キリスト教を基盤とした大帝国を建設するなかで、他国との交流や国内の変化について理解している。ローマ帝国崩壊後の東西ヨーロッパの形成と、キリスト教が果たした役割を理解し、東部においてビザンツ帝国が交易を中心に経済的に繁栄したのに対し、西部はフランク王国とローマ教皇を中心に独自性を確立し、外部勢力の侵入のなかで封建社会が形成されていったことなどを理解している。 b:西アジアや地中海周辺の諸国家における社会、宗教、文化・思想の特徴に関する諸資料を読み解き、多面的・多角的に考察し表現することができる。地中海東部で生まれた人間中心的なギリシア文化が西アジアまで展開したことや、地中海周辺を支配したローマによってキリスト教がヨーロッパに広まったことなど現代とのつながりを考察している。ビザンツ帝国の繁栄と西ヨーロッパ社会の対比を念頭に、フランク王国が台頭した理由やカールの戴冠、ノルマン人の侵入などの事象の意義を政治、文化、宗教といった多角的な視点から諸資料を読み考察している。 c：メソポタミア、エジプト、東地中海、西アジアにおける諸国家、ギリシアのポリス社会、ローマの共和政と帝政などについて、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

		南アジア・東アジア・東南アジア世界	a:南アジアや中国でおこった諸文明における身分や階級、王権や宗教との関係について理解している。中国の王朝交替を中心とした国家形成や、中央ユーラシアの歴史との関わりに着目して相互の社会、宗教、文化の特徴を理解している。南アジアに仏教など新しい宗教が展開した理由や、統一王朝の変遷、交易活動について、諸資料を読み取り知識を身につけている。東南アジアの風土や南アジア・中国との関係、国家形成の特徴を理解している。 b:秦・漢と匈奴・鮮卑といった遊牧国家、唐とウイグルや吐蕃、日本、朝鮮といった、中国王朝とその近隣国家との関係について考察、表現している。南アジアにおける統一王朝の成立過程に着目して社会や文化との関係性や、東南アジアや東アジアとの交流を多面的・多角的に考察している。 c:南アジアや中国王朝の変遷、東南アジアの交易、中央ユーラシアの遊牧民との関係などについて、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価
	中世	イスラーム世界	a:イスラーム教の成立とその背景、イスラーム王朝の領域的広がりとその支配の特徴、イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響、イスラーム教の諸地域への伝播に関する知識を身につけている。イスラーム王朝の興亡や、イスラーム文化の成立の経緯、バグダードやカイロの繁栄が実現した要因などについて、諸資料を読み解き、歴史的諸事象と関連付けることができる。 b:イスラーム政権の拡大を示す地図などを基に、イスラーム教が西アジアやアフリカ、中央アジアなどに与えた影響を多面的・多角的に考察している。トルコ人の進出・十字軍遠征・モンゴル勢力の襲来など、外的圧力に対するイスラーム政権の動きや社会への影響を多面的・多角的に考察している。 c:イスラーム教の成立と拡大、イスラーム教の各地への伝播、多動する西アジアの情勢などについて、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

		中世ヨーロッパ世界	a:西ヨーロッパ世界と東ヨーロッパ世界がどのようにして独自の世界を形成したかを、相互関係や比較したうえで理解している。フランク王国とローマ教会の関係やカールの戴冠の歴史的意義、封建社会の成立と解体など、政治と宗教のつながりや、それが社会にもたらした影響を多面的・多角的に考察している。中世の西ヨーロッパ世界でローマ＝カトリック教会が持った権威、十字軍遠征における各国の動向、教皇権の衰退と王権の伸張の関係、について理解している。東ヨーロッパ世界におけるビザンツ帝国の繁栄と衰退の過程とスラブ人が各地域で自立していった経緯を理解している。 b:中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割や社会的な影響、各国の成立過程と因果関係、相互関係について多面的・多角的に考察している。ビザンツ帝国の繁栄と衰退の因果関係や、ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について多面的・多角的に考察している。封建社会の成立とその解体に向かった背景や中世都市が獲得した政治的地位、都市での人々の暮らし、西ヨーロッパで商業が盛んになった要因など、人々の生活の視点にたって、西ヨーロッパ世界の仕組みを考察している。 c:中世ヨーロッパ世界の社会の仕組みや政治、文化、キリスト教が及ぼした影響などについて、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

		宋とモンゴル帝国、アジア交易の興隆、アジア諸帝国の繁栄	a:10 世紀前半に東アジアで政権交代が相次いだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解している。宋の対外関係の特徴や社会、経済の発展、文化の特徴について理解している。モンゴル帝国が成立した背景と、その支配が東アジアに及ぼした影響、モンゴル帝国の解体の要因を理解している。オスマン帝国とサファヴィー朝の基礎や統治がどのように確立に、支配していたかを理解している。ムガル帝国の基礎が築かれた経緯やヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係、非イスラーム教徒に対する施策の変遷、ムガル帝国衰退の背景や要因を理解している。明代について国内統治の特徴や社会・経済・文化の特徴を理解し、清朝について周辺民族を統治する仕組みや漢人の社会や文化に対してどのような態度をとったのかなどを理解している。 b:「清明上河図」などの諸資料を読み取ることや、社会の変化と文化の特徴の比較から、宋の特徴を多面的・多角的に考察している。「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、諸資料をもとにアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察している。オスマン帝国とサファヴィー朝の統治を比較し、その統治が当時の人々や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察している。ムガル帝国時代の支配地域を表す地図などの諸資料をもとに、ムガル帝国がどのように興隆し衰退した背景や要因について、多面的・多角的に考察している。明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係や、明との朝貢関係が諸地域にもたらした絵協を多面的・多角的に考察している。皇帝を描いた図などの諸資料をもとに、清代の皇帝とそれ以前の中国王朝皇帝との違いや、支配地域を描いた地図をもとに、明代と比較したうえで終焉諸国と中国の関係について、多面的・多角的に考察している。 c:10～12 世紀の東アジアや、モンゴル帝国、アジア交易世界、オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国、明代と清代の中国について、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

	近世	近世ヨーロッパ世界	a:ルネサンスの担い手や彼らの動機に注目し、ルネサンスがどのように広がっていったのか、ルネサンスの特徴やそれが後世に与えた影響について理解している。宗教改革の成立過程や、カトリック改革が持つ世界史的な意義、新しい宗派の教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を踏まえてヨーロッパの宗教分布を理解している。主権国家及び主権国家体制の成立の経緯について、これまでのヨーロッパ世界の情勢を踏まえたうえで理解している。16 世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係、17 世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因、17 世紀において起きたイギリスの２つの革命の国際的影響、イギリスとフランスの覇権争いなど、オランダ・イギリス・フランスの各国が持つ課題と強みについて理解している。主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置、ロシアが主権国家体制に移行した経緯、プロイセンとオーストリアの関係の推移など、北欧や東欧各国の関係やその変化、それぞれで発生した改革の内容について理解している。科学革命の成果とその影響、従来の学問の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義について理解している。 b:美術作品の図像をもとに、これまでのヨーロッパ文化に対してルネサンスの新しさや古典的な要素を多面的・多角的に考察している。「九十五カ条の論題」など諸資料をもとに、主教改革の動きが広まった要因やこれまでの教会改革との違いを多面的・多角的に考察している。ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す諸資料をもとに、主権国家体制のせいりつと戦争の関係を多面的・多角的に考察している。覇権争いの経緯や「権利章典」などの諸資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因や、イギリスに対するフランスの動向について、多面的・多角的に考察している。ルネサンスと比較を踏まえて、科学革命がヨーロッパの人々や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察している。 c:ルネサンス。宗教革命、主権国家体制の成立、オランダ・イギリス・フランスの覇権争い、北欧・東欧の動向、科学革命と啓蒙思想などについて、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

後期	近代	近代ヨーロッパ・アメリカ世界	a:海外貿易が近世ヨーロッパ経済に与えた影響や、16 世紀にはじまった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解している。革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響、人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し共通点と相違点を理解している。ウィーン会議の参加者たちが目指した国際秩序がどのようなものか、大陸諸国と比較したときの 19 世紀イギリスの政治革命の特徴、ヨーロッパ諸国に与えた社会主義思想の影響を理解している。クリミア戦争における各国の思惑、19 世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点、ドイツとイタリアの国民国家成立の共通点と相違点、ビスマルクの諸世作の動機などを理解している。19 世紀欧米文化における担い手やその展開の推移や、国民文化と国民国家形成との関係、近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景などを理解している。 b:当時の工場の様子を描いた図や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察している。アメリカ独立宣言や「権利の章典」などの諸資料をもとに、アメリカ画集国独立の独自性や、それがヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察している。「旧体制」の風刺画や人権宣言などの諸資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする議会が創出されたことや、ナポレオンの試合に対する人々や議会、諸国の反応を多面的・多角的に考察している。中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察している。ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や風刺画をもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地に与えた影響、ウィーン体制を動揺させた要因、ヨーロッパ内の地域差に着目したうえで 1848 年革命の展開と影響を多面的・多角的に考察している。19 世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景や、様々な国際運動は進展した背景を多面的・多角的に考察している。19 世紀欧米文化の事例をもとに、このじきの文化と現代の文化のつながりや、当時の社会に与えた影響を多面的・多角的に考察している。 c:産業革命から始まる近代ヨーロッパ世界において、欧米各国の思惑や動向、再編成について疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

		アジア諸地域の動揺、帝国主義列強とアジア・アフリカ	a:オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯や、改革の成果と課題について理解している。ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアや東南アジアで行った活動や、列強の進出に対する東南アジアの動きなどについて理解している。中国の開港の波形や貿易の拡大がもたらした影響、欧米諸国の進出経緯を理解している。列強の植民地化によるアフリカや太平洋地域、中南米の社会や文化の変容を理解している。アジア各地における改革や民族運動の経緯や傾向を理解している。 b:列強によるオスマン帝国への経済的干渉など、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察している。東インド会社の統治とイギリスによるインドの直接統治の違いや、東南アジアでタイが植民地化されなかった要因など、他の事例と比較しながら事象を多面的・多角的に考察している。欧米諸国が進出した東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察している。列強の植民地・勢力圏を示した地図などをもとに、世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察している。アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察している。 c:西アジアの変容、南アジア・東南アジアの植民地化、東アジアの激動について、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

		二つの世界大戦	a:バルカン半島で緊張が高まった背景と、その結果始まった第一次世界大戦における戦時外交および総力戦の特徴、ロシア革命の経緯を理解している。第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯や、国際協調をめぐる各国の動向と国内情勢を理解している。世界恐慌が起こった背景とその影響、各国の政策内容について理解している。第二次世界大戦の展開と終戦までの経緯を理解している。戦後国際秩序がどのような構想で形成されか、冷戦の展開やそれが世界に与えた影響について理解している。 b:第一次世界大戦が勃発した原因や、もたらした影響、歴史的意義を多面的・多角的に考察している。西欧諸国における第一次世界大戦後の展開とその変容を多面的・多角的に考察している。世界恐慌下における各国の変容と、ファシズム諸国や日本の動きについて多面的・多角的に考察している。第二次世か大戦の特徴を「大西洋憲章」などの諸資料を手掛かりに多面的・多角的に考査している。戦後国際秩序下の各国における変容を多面的・多角的に考察している。 c:世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊、第二次世界大戦と戦後国際秩序について、疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

	現代	第二次世界大戦後の世界	a:米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯、西欧と日本の経済復興の経緯について理解している。自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国の動向や新興国が直面した困難の内容とその原因、国際社会が核兵器の制限に取り組むようになった経緯を理解している。国際情勢との関係をふまえ、ベトナム戦争など米ソ代理戦争の性格についてや、冷戦の動揺によって緊張緩和が進んだ経緯を理解している。1970 年代の世界経済、オイルショックが各国に与えた影響、各地の変容について理解している。冷戦終結後の諸国の変化と地域・民族紛争の背景や経緯、経済における世界の一体化を理解している。20 世紀以降の科学技術の革新や現代思想・文化における新しい潮流の経緯を理解している。 b:冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察している。キューバ革命が国際社会に与えた影響を多面的・多角的に考察している。1960 年代におけるアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容と、それに伴う冷戦の動揺がもたらした各国への影響、第三世界における開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察している。原油価格の推移や経済成長率の数位などの統計を基に、オイルショックが世界の釈迦と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察している。冷戦終結後の政治的・経済的変化や今日の国際関係に必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察している。人々の世界観や生活のありようの変化を多面的・多角的に考察している。 c:オイルショックとその影響、冷戦の終結、今日の世界が抱えている課題、現代文明の諸相について疑問や興味・関心を抱き、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	プリント提出 発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度